

子宮内膜受容能検査の有効性の検討

1. 研究の対象

当院で体外受精、顕微授精などの生殖補助医療を受けており

2018 年 12 月から 2025 年 12 月に子宮内膜受容能検査(ERA : endometrial receptivity analysis) (TRIO 検査に含まれる)を受けられ、その後胚移植を行なった方

2. 研究目的・方法

子宮内膜が胚を受容する時期は着床の窓(window of implantation : WOI)と呼ばれ、一般的に排卵後 5 日目から 8 日目です。当院のホルモン補充周期(人工周期胚移植)ではプロゲステロン投与(腔剤)開始から 120 時間後に凍結融解胚移植を行っていますが、WOI には個人差があることが報告されており反復着床不全(良好な胚を複数回移植しても妊娠に至らない方)の中には WOI がずれている方がいることが推察されます。ERA はホルモン補充周期(人工周期)で胚移植を行う時期の子宮内膜を採取し次世代シーケンサーという方法で 236 の遺伝子からその方の WOI を調べる検査です。その結果に基づいた個別化胚移植(personalized embryo transfer : pET)を可能にします。しかしながらその有効性については未だ議論の余地があります。当院では 2018 年 12 月から反復着床不全の方に ERA (TRIO 検査)の情報提供を行い希望者に検査を施行しています。本研究では 2018 年 12 月から 2025 年 12 月までのおよそ 150 症例の情報(年齢、妊娠分娩歴、既往歴、不妊期間、不妊原因、ERA 結果、移植胚の情報：受精から凍結までの日数、胚のグレード、着床の有無、流産の有無)を用い ERA の結果に基づいた pET により着床率が改善するかを統計学的に解析し、ERA の有効性を検討することを目的としています。

研究実施期間：研究実施許可日～2026 年 3 月 31 日

利用を開始する予定日：2024 年 6 月 26 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

以下の情報

- 1) 患者基本情報：年齢、妊娠分娩歴、既往歴、不妊期間、不妊原因など
- 2) ERA 結果：適切と考えられるプロゲステロン投与から胚移植までの時間
- 3) 胚移植の情報：受精から凍結までの日数、胚のグレードなど
- 4) 着床の有無、流産の有無など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

秋田大学大学院医学研究科医学専攻 機能展開医学系 産婦人科学講座 助教 岩澤卓也
〒010-8543 秋田市本道1丁目1番1号
TEL:018-884-6163

研究責任者：

秋田大学大学院医学研究科医学専攻 機能展開医学系 産婦人科学講座 教授 寺田幸弘

-----以上